

パラスポーツの魅力知って

美浜 日福大生が小中学校で教室



ランプを使った戦略を考える
生徒ら＝美浜町の河和中で

美浜町の日本福祉大スポーツ科学部の学生らが、町内の全7小中学校でパラスポーツの魅力や意義を伝える教室を開いている。

大学と町教委が連携し、毎年実施。パラスポーツな

どを研究している安藤佳代子准教授ゼミの学生が講師を務め、20日は、河和中の1年生100人にボッチャを教えた。

ボッチャは競技者が交互にボールを放ち、的の玉との距離を競う。ボールは手で投げたり足で蹴ったりするほか、ランプという傾斜をつけてボールを転がす道具を使い、手足に障害がある人もプレーできる。生徒らは補助役の「ランプオペレーター」として、競技者から伝えられるランプの方向や角度を細かく調整する役割も体験。さまざまな立場ややり方で参加できるパラ競技の魅力を実感した。

(石井豪)